

「脚下照顧」

「安藤君と浦島太郎の関係」

安藤君の結婚式の披露宴に出席してきました。名古屋のヒルトンホテルで盛大に行われました。

式場に到着早々、安藤君から「社長、今日主賓ですから」と告げられ、しょっぱなのスピーチ役に任命されてしまいました。式に出席することすら数日前に知らされたばかりでしたので、「おいおい、こんな肝心なこと早めに教えておいてくれよ～」とおもわず泣きが入ってしまいました。

普段はスピーチなんぞは平常心で思ったことを素直にしゃべればいいと思っているのですが、しょっぱなのスピーチということと親戚の方々を前に、なんとか安藤君の勤務している会社は、靴下破れて顔は真っ黒になって家に帰っては来るけどいい会社なんだ！とアピールしたいと思った瞬間に何をしゃべっているのかぜんぜんわからなくなってしまい、あがりっ放しのスピーチになってしまいました。

私よりもっと輪をかけてひどかったのはもちろん安藤君で、最後の大トリの新郎の挨拶で「A:皆様本日は大変ありがとうございます」「B:本文」「C:今後ともよろしくお願いいいたします」となるはずの構成が「A」+「C」で完了してしまいました。

事前に、「安藤君、結婚式のスピーチは格別だ！めちゃくちゃ緊張して頭真っ白になるぞ！」と忠告しておいたのですが、まさにその通りになってしまい、後で安藤君に、「社長がそんな事いうから本当に真っ白になってしまったじゃないですか～」とおこられました。

私はごめんごめんとその場は謝ったのですが、心の中では「俺が言おうが言わまいが、どうせ頭の中は真っ白になったに違いない、間違いない」と確信していました。(笑)

安藤君は人前で流暢にしゃべれない事がかなりのコンプレックスらしく、このコンプレックスさえなければ自分は藤原達也にも勝るとも劣らぬいい男だと思っている節があるのですが(自社調べ)、私からすればこの人前でうまくしゃべれない安藤君だからこそ、何ともいえないとつきやすい素直な雰囲気醸し出し、入社してまもなくからテクアの飛車角である田中さんと長谷川さんが、「自分に付けてくれたら一人前に教育しますよ」とすぐに教育係に名乗りをあげてくれ、1ヶ月もたたないうちに「安ちゃん、安ちゃん」とみんなから親しまれたのだと思います。

コンプレックスは1日のうちに何度も意識の上に浮上してきます。その都度「あーもう、お前がもう少しちゃんとしてくれたらな～」とか「お前なんかなけりゃいいのに」とか言って自分のコンプレックスを思わず攻撃してしまいます。これをイメージ化すると、時々浜辺に上がってくる海亀を棒で執拗に突っついていじめている子供の風景と重なります。そして自分のコンプレックス(以下、海亀のコンちゃんと呼ぶ)が、意外にも自分の意識していないところで自分のために一生懸命がんばってくれたことに気付いて認め受け入れていく様をイメージ化すると、いじめっ子を追い払い傷ついた海亀を優しく抱きかかえている風景と重なり合うと思います。

私が座ったテーブルには安藤君の友人たちが座っていて、その誰もが本当に安藤君のことを大切に思っていて、とてもいいやつばかりで、思わず全員テクアにスカウトしたくなる衝動に駆られました。本当にいい友にめぐり会っていたのです。これも海亀のコンちゃんの功績だと思います。そしてそして、最大の功績はコンちゃんが竜宮城から裕子さんという乙姫さまを乗ってきたことです。キメるトコなかなかキメれないけど、ほのぼのとしたやさしいコンちゃんの背中に乗って二人は出会ったのではないのでしょうか？今二人はグアムに新婚旅行中ですが、きっとグアムの海亀も祝福していることと思います。

人間には不必要なものは何もなく、全部必要で意味があるから備わっていて、時に邪魔に思えるものが実は裏方で一生懸命人生というドラマを支えているのだと思います。安藤君、裕子さん本当におめでとう！！

スピーチで本当に言いたかったことはこんな感じの事でしたが、あがってしまって私も相当A+C型スピーチでしたのでこの場をお借りしましてもう一度語らせて頂きました。

安藤夫妻、そして我々テクアファミリーに幸多かれ！！